

～堀内グループの経営革新～  
建設事業を核とした新分野の取り組みについて

私が社長を務める会社は総合建設業を核に、農業や福祉分野に事業を広げている。私の生きざまを参考にしてもらえたらうれしい。

会社は昭和14（1939）年から旧国鉄松浦線（現在の松浦鉄道）の線路建設工事をしたことをきっかけに、昭和25（1950）年5月に株式会社として創業した。現在は県庁舎や九州新幹線長崎ルート、九州電力松浦発電所などの建設工事に携わっている。公共工事が削減されたのを

経営トップ講義  
@県立大  
「ビジネス経済の実践」要旨

⑥



「目的を持ってまい進すれば、必ずできる」と語る山下社長  
＝県立大佐世保校（山口隆行撮影）

堀内組代表取締役社長

やました こうぞう  
山下 功三氏

# 自らの知恵で仕事創出

機に、2005年に農業生産法人を設立した。ブルーベリーやマンゴー、オリブを生産し直売所で販売している。今ではブルーベリーは9千本を栽培。直売所は年間20万、25万人が訪れる。雇用確保や県北の新しいブランドづくりに貢献している。将来は農業分野への進出を検討する企業に対し、農業生産法人の設立

の仕方や栽培方法、苗の提供、販売戦略、ほ場整備などをパッケージ化して販売したい。福祉部門では1998年に社会福祉法人を設立。北松佐々町に特養ホームを運営するほか、佐世保市の三ヶ町アーケードで住宅型・介護付き有料老人ホームなどを運営している。これからは自らの知恵で仕事を創出する時代だ。今後

も地域に必要とされ、評価される事業展開を目指している。大学の4年間で基礎を学び、これをいかに社会で生かすのが大事だ。皆さんは目標を決めて、どういう勉強をするべきか明確にする時期にきている。

私の経験で言えば、私は県立佐世保工業高校で建築を学んだ。野球部ではシヨートを守り、1年から四番を務めた。甲子園に出場はできなかったが、西鉄ライオンズ（現在の西武ライオンズ）が入団の勧誘にき

た。しかし私の目的は違った。私は父が社長を務める建築の仕事がしたかったので断って、東京のゼネコンに就職した。

職人を指導する立場になったが、分からないことが多い。勉強をし直すつもりで、日本大建築学部に入り、1年間も休まずに勉強した。4年間

みっちり学び東京大生産技術研究所に入るよう推薦をされた。しかし現場の技術を覚えたいと思って断った。東京大教授と関連する設計事務所に入社し、東京大の専門家の教授といろんな作品を造り、一つは日本建築学会から賞をもらった。目的を持ってまい進すれば、必ずできる。

困難にぶつかっても、楽なほうに逃げてはだめだ。誰でも与えられた時間は平等だ。それを有効に使うかどうかで5年後、10年後に差がつく。皆さんはこの国の将来を背負う責任がある。新聞を読んで政治や経済の情勢を知り、関心をもってほしい。

私は今76歳だ。目的を持ってきたからここまで来ることができた。100歳まで頑張る。「キープ・オン・ゴーイング」。毎日前進だ。いろいろな知識を得て世のため、人のために羽ばたいてほしい。

（西村伸明）

次回28日に掲載します